A3-03 J-PEAKS を通じたアクア・リジェネレーション機構の信州発グローバル拠点化に向けて

土井 達也（信州大学・アドミニストレーション本部）

信州大学は、「Greater Shinshu University 構想（VGSU 構想：3 つの E による大学発展構想）」として、研究・教育・社会貢献での特色や強みを伸ばし(Extend)、信州地域はもとより、周辺地域の研究機関や産業界、国際社会とも広域かつ深淵な連携を拡げ(Expand)、社会を豊かにし、より良い未来を創る(Enrich)ことを目指しています。この具体例として、本学の強みである「アクア・リジェネレーション(ARG)分野の研究力を核に一歩先のソリューションを共創する大学」を地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）で実現するビジョンとして挙げました。既に 10 年以上前から世界的な研究基盤を保有する材料研究を集約、リソースの集中、政府等の支援により「水」に関する研究分野の強みを形成しています。

本学は J-PEAKS にてビジョン実現に向け、「研究の卓越性」、「イノベーション」、「地域課題解決」の 3 つの機能を強化することとしました。この 3 機能を強化するため、①ARG 機構の新設と特区化、②アドミニストレーション本部(AHSU)の全学横断機能を活用した「国際展開」及び「地域貢献」、③ARG 技術による地域課題解決を試行する「実証タウン」の設置の 3 つの取り組み(後述)を深化させています。

図 1　J-PEAKS で形成する実証タウンの構想

① ARG 機構の新設と特区化：部局相当の新設研究組織として ARG 機構（機構長：手嶋勝弥卓越教授/学長特別補佐）を設置しました。機構では世界水準の「水」関連研究を先導する PI を中心に研究ユニットを複数形成しています。加えて、ARG 機構の特区化により研究力強化等大学改革に資する取り組みを試行できるようにしています。

② アドミニストレーション本部(AHSU)の全学横断機能を活用：大学改革を全学一体で進めるため、複数の部局や事務組織の横ぐし機能を持つマネジメント組織 AHSU を設置しています。ARG 機構と AHSU の高度な連携により、国際的な活動や地域貢献活動の IR 機能を活用した企画立案から戦略実行のフェーズまで、複数の組織のリソース投入し、全学を挙げて 3 機能を高めています。

③ ARG 技術による地域課題解決を試行する「実証タウン」：ARG 機構で研究開発された研究・技術は、長野県の自治体等の課題解決にも大いに貢献します。長野県は少子高齢化や高い物流コストなど、我が国の山間部に共通する課題が顕在化しています。実証タウンでの ARG 技術を活用した課題解決の取り組みを通じて、ARG 技術の社会実装に向けた完成度を高めてゆくとともに、民間企業やスタートアップを地域に誘引し関係人口の増大や産業創出を目指しています。

本学では、ARG 機構の研究・社会実装のグローバル拠点化や J-PEAKS での研究大学群の形成を目指し、他機関との連携を積極的に進めています。ARG 分野に関連する研究連携のためのシンポジウム・研究会等の共同開催、海外（中東・アフリカ・アジア等）での共同実証拠点構築、国内での共同実証タウン構築(県内に限らず)など、様々な側面での協業を求めています。

PROFILE

土井 達也（信州大学アドミニストレーション本部　准教授(URA)）
千葉大学大学院融合研究科博士後期課程修了　博士（工学）。2012 年より信州大学において、大型研究プロジェクト等の組成・運営に従事。2018 年より無機結晶材料「信大クリスタル」の事業化を実施するプロジェクトの副事業プロデューサに就任し、「信大クリスタル」を用いた浄水器・日本酒・クラフトビールなどの事業化に関与。現在、アクア・リジェネレーション機構に参画し、世界レベルの『水』研究拠点形成に寄与。

Copyright(c); 2025, The Chemical Society of Japan